



**ラリー講習会
テキスト**

もくじ

序章

- ラリー参加までの流れ 3
- ラリーに参戦するための準備 4-10

マナー講習会資料

- ラリーのお約束 11
- SS内の危険箇所について 12
- タイムコントロール(TC)の通過方法 13-15
- アクシデントに見舞われたら 16-19
- 困った時はCROに相談しよう 20
- 各種提出書類について 21-24
- ラリーチャレトラッキングについて 25
- 車検 26

ラリーに必要な知識

- ロードブックとは 27
- コマ図の読み方 28-31
- ラリー中に使われる標識 32-33
- TC(タイムコントロール)カードの使い方 34
- ペースノートの作り方 35-36

付録

- ラリーとは? 37-38
- TGRラリーチャレンジとは? 39-40
- ハイブリッド車両の新しい楽しみ方 41
- ボランティア・オフィシャルをやってみよう 42
- ラリー用語集 43

ラリー競技参加までの流れ

事前

国内Bライセンス取得

参加には、JAFが交付する「国内Bライセンス」以上のライセンスが必要です。講習会を受講すれば取得可能です。

競技車両・装備品準備

参加するための車両とその装備品を準備してください。初めての場合は、ラリーショップ等に相談するのもお奨めです。

練習会参加

競技には危険が伴いますので、ラリーショップやラリーチャレ主催の練習会に参加したり、サーキットやジムカーナ場で事前に練習することをお奨めします。

情報収集・宿泊検討

ラリーのスケジュールはラリーチャレのウェブサイトを確認可能です。こまめにチェックして、参加計画を立てておきましょう。

ラリー保険加入

ラリー競技参加には、競技走行に有効な任意保険もしくは共催等への加入が義務付けられています。事務局推奨の保険もご紹介します。

シリーズエントリー

毎年、初回参戦時にはシリーズエントリーが必要となります。参戦申込みと同時に行ってください。

参戦申込み

各大会の参加申込みを行ってください。申込みの際、競技に有効な保険証券のコピーも必要となります。

事前整備・点検

競技参加前には、必ず車両および装備品の点検を行ってください。装備品については使用期限も確認してください。

指定ステッカー配布

ラリーチャレ参加に必要な指定ステッカーを受け取り、車両に貼り付けてください。なおゼッケンは当日配布されます。

マナー講習会

初参加の方は、参加必須となります。マナーや安全等について説明します。

懇親会(任意参加)

大会により、懇親会が実施されます。開催される場合は、大会情報で案内いたします。なお参加は任意となります。

レッキ(レキ)

コースの下見走行です。ラリーチャレでのレッキは1回のみとなります。動画等を撮影し、後で見直せるようにすると良いでしょう。

参加受付

参加の確認を行います。ドライバーおよびコドライバー両者とも本人が受付を行ってください。ライセンス等の確認を行います。

車検

車両の安全装備やヘルメット等の装備品の確認を行います。あわせて、車両が規定にあっているかも確認します。

開会式・ブリーフィング

全員集合しての開会式です。開催組織の紹介や注意事項等の説明もあるので、必ず参加してください。また集合写真の撮影もあります。

競技

いよいよ競技です。最初は無理することなく完走を目指して走行しましょう。

表彰式

上位入賞者の表彰を行います。可能な限り、全員参加をお願いします。

一ヶ月前

直前

前日・当日

ラリーに参戦するための準備

- ▶ まずは国内Bライセンスを取得しましょう。
- ▶ ウェアや車両を用意すれば、あとは参加するだけ！

国内Bライセンスを取得する

ライセンスはJAFが定める公認競技に出場する際に必要なものです。TGRラリーチャレンジはJAF公認競技のため、参戦するには国内Bライセンス以上が必要となります。国内Bライセンスを持っていれば、TGRラリーチャレンジをはじめ全日本選手権まで、国内で開催されるほとんどのラリーに参戦可能です。

国内Bライセンスは毎月各地のJAF公認クラブや加盟クラブが開催しているライセンス講習会などを受けることで取得できます。講習会を受講すれば、晴れてあなたも国内Bライセンス所持者です。

国内Bライセンス講習は全国各地で行われている

ライセンス講習会の日程はJAFのホームページで確認でき、最寄りの地域や時間帯の講習会が選べます。

国内ラリーに出場するためのBライセンスは講習を聴くだけで取得可能です。取得にあたってはJAFの会員登録(すでに会員になっている場合は不要)と、ライセンス取得のための費用がかかります。なお、ライセンスは毎年更新料が必要で、12月31日でその年のライセンスは失効となります。忘れずに更新しましょう。



4輪自動車競技用ライセンスの種類

分類	ライセンスの種類	主な参戦可能競技
国際	スーパーライセンス	F1
	Aライセンス	GP2シリーズ、INDYCARシリーズなど
	Bライセンス	Super Formula、ル・マン24時間など
	C-Cライセンス	国際格式のオートクロス、一部の国際レース
	C-Rライセンス	WRC、APRC、ダカールラリーなどの国際ラリー
	ドラッグライセンス	国際格式のドラッグレース
国内	ソーラーカーライセンス	ソーラーカーレース鈴鹿など
	Aライセンス	国内格式レース
	Bライセンス	国内格式ラリー、ジムカーナ、ダートトライアル、サーキットトライアルなど

競技車両や装備品の準備について

●競技車両を用意する

ラリー競技車両は一般公道を走行することからすべてナンバー付きの車両となります。TGRラリーチャレンジでは、クラスごとに改造範囲が細かく分類されています。車両は、ヴィッツや86などのトヨタ車だけでなく、他メーカーのクルマも参戦可能です(OPENクラス)。クラス区分は、車種や排気量、年式などが異なるクルマ同士が競技を楽しめるように設定されています。もし規定に反する改造を行った場合は、ラリー前の車検によって失格になってしまう可能性もありますので、部品交換時などは注意が必要です。クラス区分や参戦可能な車種などについてはTGRラリーチャレンジ「シリーズ規則書」に記載されています。

●ラリー競技車両に必要な安全装備を搭載する

ラリーでは競技中にアクシデントで壁などに衝突したり、車両が横転することも考慮しなければなりません。そんな時、ドライバー/コ・ドライバーの安全を確保し、被害を最小限に止めるために車両の安全装備は欠かせません。6点式+サイドバー以上のロールケージ、4点式以上のシートベルトは規定された必須装備となっています。頭部および頸部を保護する「FHRシステム」については推奨となります(一部必須)。また、ラリー競技車両に搭載しておくべき安全装備品として、消火器、三角反射停止板、非常用信号灯、牽引ロープ、救急薬品などが規定されています。緊急時に必要なOK/SOSマークは乗員が取り出しやすい位置に、確実に固定しておく必要があります。詳しくは TGRラリーチャレンジ「シリーズ規則書」を確認してください。

●事前に車両の点検・整備を行う

ラリーでは車両の各部に大きな負荷がかかります。そのため、ラリー終了後もしくは次のラリー参戦前には、車両各部の増締めやオイル類の点検・交換などが必要です。点検・整備は車両のメンテナンスを依頼しているラリーショップのほか、簡単な作業であれば選手自身が行うことも可能です。また、トヨタ車であればトヨタ販売店に点検をお願いすることも可能です。場合によっては、経年損耗部位やブレーキパッドなどの消耗が見つかることもあります。安全はもちろんのこと、競技車両に起因する競技中のトラブルやアクシデントを防ぐことも良い成績を残すために重要なポイントです。競技当日に行われる車両検査(車検)では、オイル漏れなどの安全面のほか、規定外のパーツが使われていないかのチェック、灯火類やシートベルトなどの安全装備の点検が行われます。いずれかひとつでも基準を満たさない車両は出走できませんのでご注意ください。

ラリーベース車両の種類

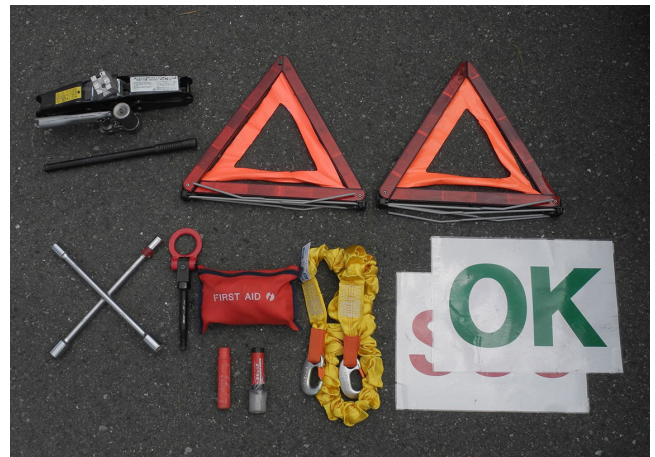
- ナンバー付きの一般市販車がベース
- JAF国内競技車両規則のラリー車両に従ったラリーカー(RJ/RPN/AE車両等)
- TGRラリーチャレンジでは排気量や改造範囲でクラス設定をし、イコールコンディションに近い戦いができるようになっている。



TGRラリーチャレンジで義務付けされている安全装備品

- ロールケージ(6点式+サイドバー以上)
- シートベルト(4点式以上)
- 内容量2kg以上の化学消火器
- 非常用停止表示板(三角停止板×2)
- 非常用信号灯(発炎筒)
- 赤色灯
- 牽引ロープ
- 救急薬品など
- OK(緑色)/SOS(赤色)A3サイズボード(2枚)

※OK/SOSボードは、初参加者のみ事務局から支給されます。



※取り出しやすい位置に確実に固定してください。

事前整備

- 基本点検
 - ・タイヤ、ブレーキ、ワイパー等の消耗品確認
 - ・各部のボルトナット増し締め
 - ・油脂の漏れ点検および補充/交換
 - ・水漏れ点検および補充/交換
- 灯火類点検
- 安全装備点検(取付状況および使用期限の確認)



※ラリー終了後も必ず確認してください。

ドライバー/コ・ドライバーの装備品を揃える

モータースポーツでは、乗員を守るための安全装備が必須です。ラリーの場合は頭部を守るためのヘルメットをはじめ、レーシングスーツ、レーシンググローブ、レーシングシューズなどが必須装備とされています。

レーシングスーツやレーシンググローブなど身につけるものはFIA公認が望ましく、事故の際にドライバーを救出しやすいようにショルダー部にベルトが装着されていたり、燃えにくい不燃性繊維を使用しているなど、安全性に配慮した仕様となっています。

ラリー競技は危険を伴うため、安全に配慮した準備はととても重要です。安全にラリーを楽しむために万全の準備を心がけてください。

TOYOTA GAZOO Racingラリーチャレンジに必要なドライバー/コ・ドライバーの装備 (例)

ヘルメット (義務)	<ul style="list-style-type: none">最新のJAF国内競技車両規則第4編細則「ラリー競技に参加するクルーの装備品に関する付則」に従ってください。製造より10年以上経過したものは使用できません。※その他、強い衝撃が加わった物なども使用できません。
FHRシステム (推奨・一部義務)	<ul style="list-style-type: none">最新のJAF国内競技車両規則第4編細則「ラリー競技に参加するクルーの装備品に関する付則」を確認して下さい。
レーシングスーツ (義務)	<ul style="list-style-type: none">最新のJAF国内競技車両規則第4編細則「ラリー競技に参加するクルーの装備品に関する付則」に従ってください。防火性の生地でショルダー部にベルトがあるもの。
グローブ (推奨)	
シューズ (推奨)	JAF国内競技車両規則には記載・指示がありませんが、耐火性素材のものを使用することを推奨します。
バラクラバ アンダーウェア等 (推奨)	



競技までに確認する事項について

●TGRラリーチャレンジのスケジュール確認方法・年間スケジュール

・年間スケジュール

TGRラリーチャレンジの年間スケジュールは、年末に発表され、TGRのウェブサイトに公開されます。

・当日までのスケジュール

エントリー開始と同時に発表される「当日までのスケジュール」には、エントリーの期日のほか、各種情報の公開日や前日・当日のイベント時間と場所等の情報が記されていますのでしっかり確認しましょう。

・前日・当日のスケジュール(参加受理書)

競技開催前週の木曜日頃、「前日・当日のスケジュール」が公開されます。これにはより細かなスケジュールが記されていますのでこちらも良く確認しましょう。同様の情報は、参加受理書にも掲載されています。

●ウェブサイトに掲載される各大会の情報

・特別規則書

シリーズ全体の規則は「シリーズ規則書」に記載されていますが、特別規則書には、その大会の情報やスケジュール、その大会独自の規則が掲載されています。事前にしっかりと内容を確認しておきましょう。特にレキ受付については、サービスパークとは異なる場所が設定されることがありますので注意が必要です。

・アイテナリー

アイテナリーはラリーの競技進行を分刻みで記した行程表です。ここにはTC/SSの間の距離と所要時間が書かれています。記載されている時刻は1号車の到着時刻で、2号車以降は1号車の時間 + 走行順に応じて1分ずつ追加した時間となります。書式は世界共通のため、各国のSSラリーでも同様のものが使われています。

▼記載内容の説明は次項をご確認ください。

TOYOTA GAZOO Racingラリーチャレンジのアイテナリー(例)



① TC ② SS	③ Location	場所	④ SS dist. SS距離	⑤ Liaison dist. リエゾン距離	⑥ Total dist. 総移動距離	⑦ Target time 基準所要時間	⑧ First car due 1号車時刻
TC0	Start - Mega Web	スタート - メガウェブ	—	—	—	—	10:00
TC1	Kokusai tenji jyo	国際展示場	—	3.10	3.10	0:07	10:07
SS1	KOKUSAI TENJI JYO SS	国際展示場SS	2.60	—	—	—	10:10
⑩ TC1A	Fuji television Regroup IN	フジテレビジョンリグループIN	—	2.10	4.70	0:10	⑨ 10:20
	Regroup					0:10	
TC1B	Fuji television Regroup OUT/ Service IN	フジテレビジョンリグループOUT/ サービスA IN					10:30
⑪	Service A (Fuji television)	サービスA (フジテレビジョン)	—	—	—	0:20	
TC1C	Service A OUT	サービスA OUT					10:50
TC2	Mega Web	メガウェブ	—	0.88	0.88	0:05	10:55
SS2	MEGA WEB SS	メガウェブSS	0.50	—	—	—	10:58
TC2A	Mega Web Parc Ferme IN	メガウェブパルクフェルメIN	—	0.30	0.80	0:07	11:05
	Rally Finish	ラリーフィニッシュ					11:15
⑫	TOTAL		3.10	6.38	9.48		

※TC2Aは目標時刻より前にチェックインできる。

縦列の合計

①TC (タイムコントロール)

競技車の通過時刻をチェックするポイント。ラリーの競技はすべてTCで管理され、規定時刻にTCを通過、記録を受けないとペナルティの対象となる。

②SS (スペシャルステージ)

ラリーの競技区間のこと。すべてのSSの積算タイムが最も速いドライバーが優勝となる。

③Location (場所)

SSにはそれぞれ地域や特徴を表す名称がつけられていることが多い。後ろの数字は2回以上走行する場合の回数を表す。順走逆走を示す「UP/DOWN」や同じSSで距離が異なる「SHORT/LONG」といった表現もある。

④SS Dist. (SS距離)

SSの距離。

⑤Liaison Dist. (リエゾン距離)

TCとTC、TCとSSの間にあるリエゾン区間の距離。

⑥Total Dist. (総走行距離)

SSとリエゾンを合計した距離。

⑦Target Time (基準所要時間)

SSとリエゾンの合計距離を走行する際の目標時間。

⑧First Car Due (1号車通過時刻)

1号車が通過する時刻。2号車以降の時刻は、このタイム+1分が通過時刻となる。この時間にそのTCを通過、記録を受ける。

⑨SS Dist./Liaison Dist./Total Dist./Target Time

SS1からTC1Aを例とすると、SS距離2.60km+リエゾン距離2.10km=合計4.70kmの目標時間が10分間。1号車は10:20にTC1Aに入らなければならない。

⑩リフューエル/リグループなど

TCとTCの間に置かれるのが、リフューエル(給油)やリグループ。リグループはリタイヤや遅延などで競技車の走行間隔に狂いが生じた場合に、間隔を詰めて調節すること。サービスの前後などに設けられることが多い。

⑪サービス

ラリーカーを整備する場所。ラリーチャレンジでは40~60分間の昼のサービスがある。サービスのターゲットタイムは、TCインからアウトまでの時間を指すので、実際の作業時間ももっと短くなることに注意。

⑫Rally Totals (ラリー合計)

左からスタートしてから、ゴールに戻るまでのSS総走行距離、リエゾン総走行距離、合計走行距離を表す。

ラリー競技前日・当日のスケジュール

●ラリー前日のスケジュール

レッキ(レキ)受付 レッキ (前日実施時のみ)	「レッキ(レキ)」はコースの下見のこと。この受付でロードブックが配布されます。ラリーでは本番前に必ず安全確認のためSSの下見を行い、SSラリーでは「ペースノート」を作ります。ラリーチャレンジのレッキは1回のみですので、動画を撮影しておくこともペースノートづくりには有効です。なお、レキ受付は、HQ以外の場所で行う場合もありますので、事前にスケジュールをしっかりと確認しておいてください。
指定ステッカー配布	初参加の方やステッカーを貼りかえる方に指定ステッカーを無償で配布します。必要な方は指示された場所(おもにHQ)までお越しください。 ※指定ステッカーは毎シーズン変更となります。
前日参加受付 (前日実施時のみ)	参加受付を円滑に行うため、前日にも参加受付を行う場合がございます。 前日受付の方は当日の受付は不要ですが、当日の朝、HQに出走する旨をお伝え下さい(参加確認)。
前日公式車検 (前日実施時のみ)	車検を円滑に行うため、前日にも車検を行う場合がございます。前日受付の方は当日の受付は不要です。
マナー講習会 (初参加者向け)	TGRラリーチャレンジに初参加の方向けにマナー講習会を実施します。質疑応答も行いますので、初参加の方は必ず参加してください。参加の無い場合は、競技への参加を認めない場合もございます。

●ラリー当日のスケジュール

レッキ(レキ)受付 レッキ	前日レキを受けられなかった方は、当日早朝のレキに参加いただけます。
参加受付	参加受付はクルー2名で行ってください。受付時は参加受理書、免許証、競技ライセンスなどを忘れずに持参しましょう。確認した後ゼッケンが渡され、それを車両の規定位置に貼ります。 ※前日に参加受付済みのクルーは出走する旨をHQにお伝え下さい。
公式車検	一般道を走行するうえで必要な灯火類の点検から、安全装備を中心としたチェックなどが行われます。無事に車検に合格すると「JAF公認ラリー競技会之証」が交付されるので、競技車両の規定位置にしっかり貼っておきましょう。 ※前日の車検で合格している場合は不要です。
開会式 ブリーフィング	大会役員の紹介や挨拶を行います。またブリーフィングでは、コマ図の更新やコース上の注意すべき場所の情報などが主催者から伝達されます。参加者からの質疑も行われます。競技参加者はこのドライバーズブリーフィングに必ず参加しなければなりません。また、最後に集合写真の撮影も行います。
競技(午前)	公式掲示板に掲載される「スターティングリスト」の時間に準じて、競技スタートとなります。
サービス(昼食)	午前中の競技が終わりサービスパークに戻ります。この間に規定事項以外の整備を行う場合は「車両整備申告書」を技術委員長に提出してください。また、クルー2名分の昼食はHQにて準備しておりますので、受け取りをお願いします。
競技(午後)	TCカードに記載された時間に準じて午後の競技が始まります。
フィニッシュ	競技終了となります。終了後はパルクフェルメ(車両保管)となります。
パルクフェルメ	競技終了後の車両を正式結果が発表されるまで保管します。車両の鍵はHQにて保管となりますので各自HQまでお持ちください。保管中はパルクフェルメへの立ち入りは出来ませんので、忘れ物の無いようご注意ください(財布、カメラ、携帯電話等)。
暫定結果発表	全車フィニッシュした後に暫定結果が公式掲示板に張り出されます。 内容に異議がある場合は公開後30分以内にCROに相談の上、エンクワイアリーシートを提出してください。
正式結果発表	異議が無い場合は暫定結果発表から30分で正式結果が発表されます。
パルクフェルメ解除	正式結果が発表されるとパルクフェルメが解除されます。車両の鍵を返却しますのでHQまでお越しください。
表彰式	上位入賞者の表彰式を行います。参加者のみなさんはなるべく参加いただくようお願いします。

ラリー参加にあたってのお約束

- ▶ ラリーに参加するにあたって最低限のお約束（マナー）を守りましょう。
- ▶ 地元の方々の協力あつてのラリーという自覚を持ちましょう。

ラリーは公道を使って行われる競技です。SSとして使われる道も、普段は地元の方々が生活に欠かせないものとして使われている道路です。ラリーは、地元の方々のご理解やご協力の下で開催されています。ひとりの選手として自覚を持ってラリーに参加しましょう。

・ 日常でのお約束

みなさんの中にはラリーで使用する車両を普段のお出掛けに利用される方もいると思います。

TGRラリーチャレンジでお配りしている指定ステッカーや、思い思いのデコレーションを施したみなさんのお車は、たとえ大きな改造が施されていなくても立派なラリーカーとして注目を浴びるはず。日頃より無理な運転は控え、ゆとりを持った運転を心掛けましょう。

・ 大会当日早朝のお約束

ラリー当日は日の出前から始まることも少なくありません。早朝の移動やレキの時間は、多くの方がまだお休みになっている時間です。お車の騒音だけではなく、レキ受付の会場での待機中のおしゃべりなどにも細心の注意を払って臨みましょう。

・ 競技中のお約束







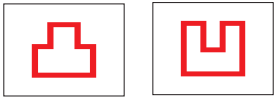
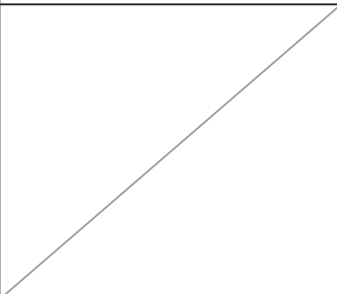
ラリー車両は競技中であっても、ひとたびSS(占有区間)が終われば一般の自動車と同じ扱いを受けます。気持ちよく走った後は心が高揚し、ついつい移動時のスピードも速くなってしまいがちです。一般公道を移動するリエゾン区間ではいつも以上に速度に注意して走行しましょう。

・ 練習でのお約束

ラリーのSSで使われる道は一般公道です。たとえ通行の少ない道であっても非合法的な練習走行は行ってはなりません。今よりもっと速く、もっと安全に走りたい方はラリーチャレンジ事務局や各ショップなどが主催するスクールや走行会に参加して腕を磨きましょう。

SS内の危険箇所について

TGRラリーチャレンジは、初心者向けのイベントのため、コースの安全にも配慮をしたラリーとなっております。そのためコーション看板というラリーチャレンジ独自の注意看板を危険箇所に設置しています。レッキでは必ず確認し、ペースノートへの反映をしたうえで、競技の際は無理の無い走行を心掛けてください。

危険度	看板	コーステープ	備考
低	 ワンコーション	 1本	<ul style="list-style-type: none"> ・入門者が見落としがちなコーナー ・形状が分り辛いコーナー ・長いストレートの先のコーナー（侵入速度注意）
中	 ツーコーション	 2本	<ul style="list-style-type: none"> ・コーナーの曲率が途中で変化するコーナー ・不測の事態により大きなダメージを生じるコーナー
高	 スリーコーション	 3本	<ul style="list-style-type: none"> ・不測の事態によって命の危険を伴うコーナー（高所の崖等）
その他	 でこ／ぼこ		<ul style="list-style-type: none"> ・コーナー手前で挙動を乱す可能性のある凹凸（グレーチング・横断排水溝等）



タイムコントロール(TC)の通過方法

SSラリーは、タイムコントロール(TC)と呼ばれる計測場所で、競技車の走行時間を管理しています。その仕組みをご紹介します。

●TC(タイムコントロール)

TCは、赤い時計マークが書かれた標識の場所です。この約25m手前には必ず黄色のTC予告標識があります。一般的に、「次のTCに何時何分に入らなければならない」というターゲットタイムにはある程度余裕があり、この黄色標識の手前であれば、停車して時間調整をすることができます。

●コントロールエリア

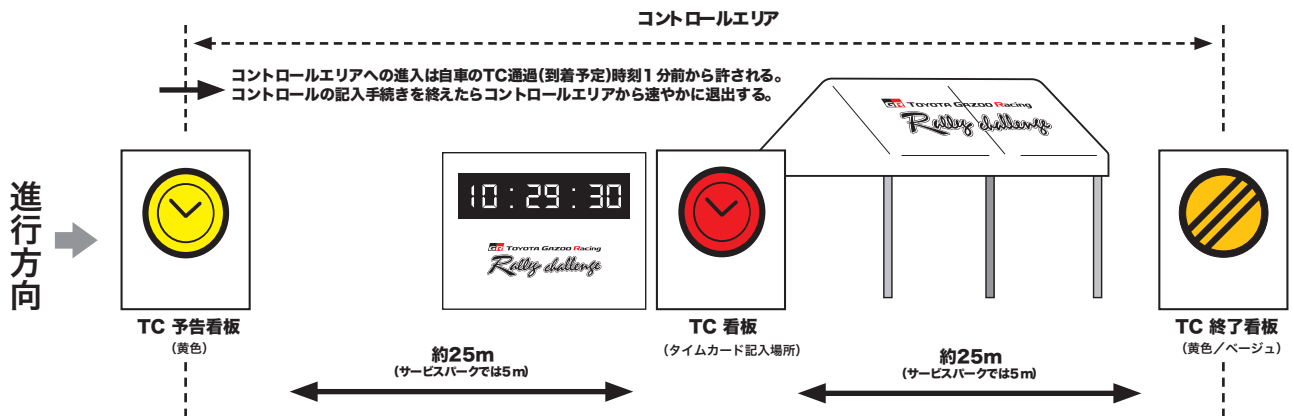
黄色のTC予告入口標識を越えて、次の黄色地に斜線が入った標識までの間は「コントロールエリア」と呼ばれています。コントロールエリア内には、TC通過時刻の1分前から入り、赤色TC標識の地点に停車することができます。1分以上前に入ってしまうと、ペナルティの対象になってしまうので注意が必要です。赤色標識地点では、自分の通過予定時刻(TCイン予定時刻)の00秒を過ぎてから、オフィシャルにタイムコントロールカードを提出してください。オフィシャルにより通過時刻が記載されます。コントロールエリアでは、オフィシャルの許可がある場合を除き、車両の整備作業はできません。(窓ふきのみ許されています)。そのTCでの作業が終わったら、黄色のTC解除の標識までの区間から速やかに退去してください。この区間でボンネットを開けて様子を見たり、タイヤの空気圧を調整するなどの行為を行うと、整備作業とみなされペナルティの対象になりますので注意してください。

●SSスタート/フィニッシュを含むタイムコントロール

TCの後にSSがある場合も、黄色のTC予告標識の前で1分前まで待機し、1分前になったら進入して自分の通過予定時刻にカードを出す、という流れは同じです。ただし、TCに入るまでに走行準備(ヘルメット、シートベルト等)を済ませておきます。ここで、TC通過時刻に加え、必ず3分後の「SSスタート予定時刻」がオフィシャルによって記入されます。その3分間で50~200m先にあるSSスタートまで進んでください。SSスタートでは再びタイムコントロールカードを提出して実際のSSスタート時刻を記入してもらいますが、進行上なにもトラブルがない場合は、TCで書き込まれた「3分後」の時刻がSSのスタート時刻となります。このSSスタートもTCと同じく、スタートを切ってからコントロールエリア終了標識までの間は停止してはいけません。フィニッシュの場合も、まず黄色いフィニッシュ予告標識があって、その後に赤いSSフィニッシュ標識があります。この赤いフィニッシュ標識は計時ラインの場所なので、ここまでは全速力で走り、その100m~300m先のストップ標識で停止します。このフィニッシュ標識とストップ標識の間もコントロールエリアとなるので停車禁止です。ストップ標識の位置でカードに記録を受けたら、速やかにコントロールエリアからでてください。

タイムコントロール(TC) 基本編

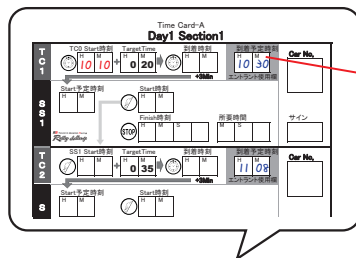
一般(通常)のタイムコントロール



タイムコントロール 進行例 (ターゲットタイム10:30の場合)

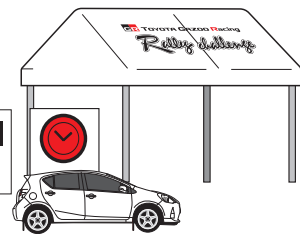
①

10:28:50
早すぎるとペナルティ!



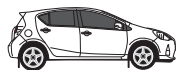
ターゲットタイム1分前まで
コントロールゾーンへの侵入禁止

10:28:50



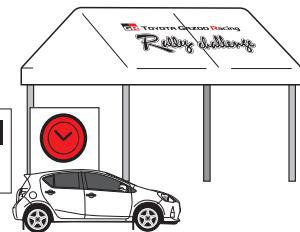
②

10:29:00
1分前から黄色い時計を通過



ターゲットタイム1分前から
コントロールゾーンへ侵入可能

10:29:00



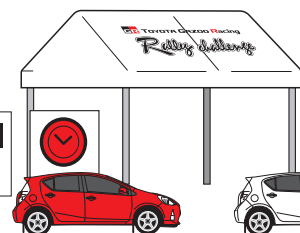
③

10:29:30
時計を見ながら待機



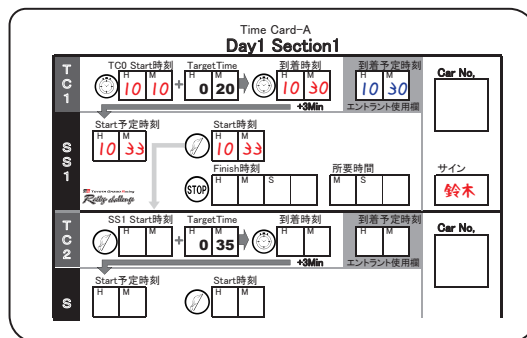
ターゲットタイムまで待機

10:29:30

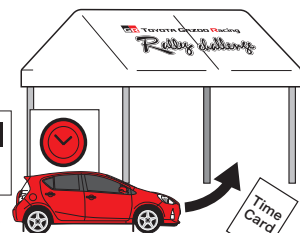


④

10:30:00
タイムカードを提出



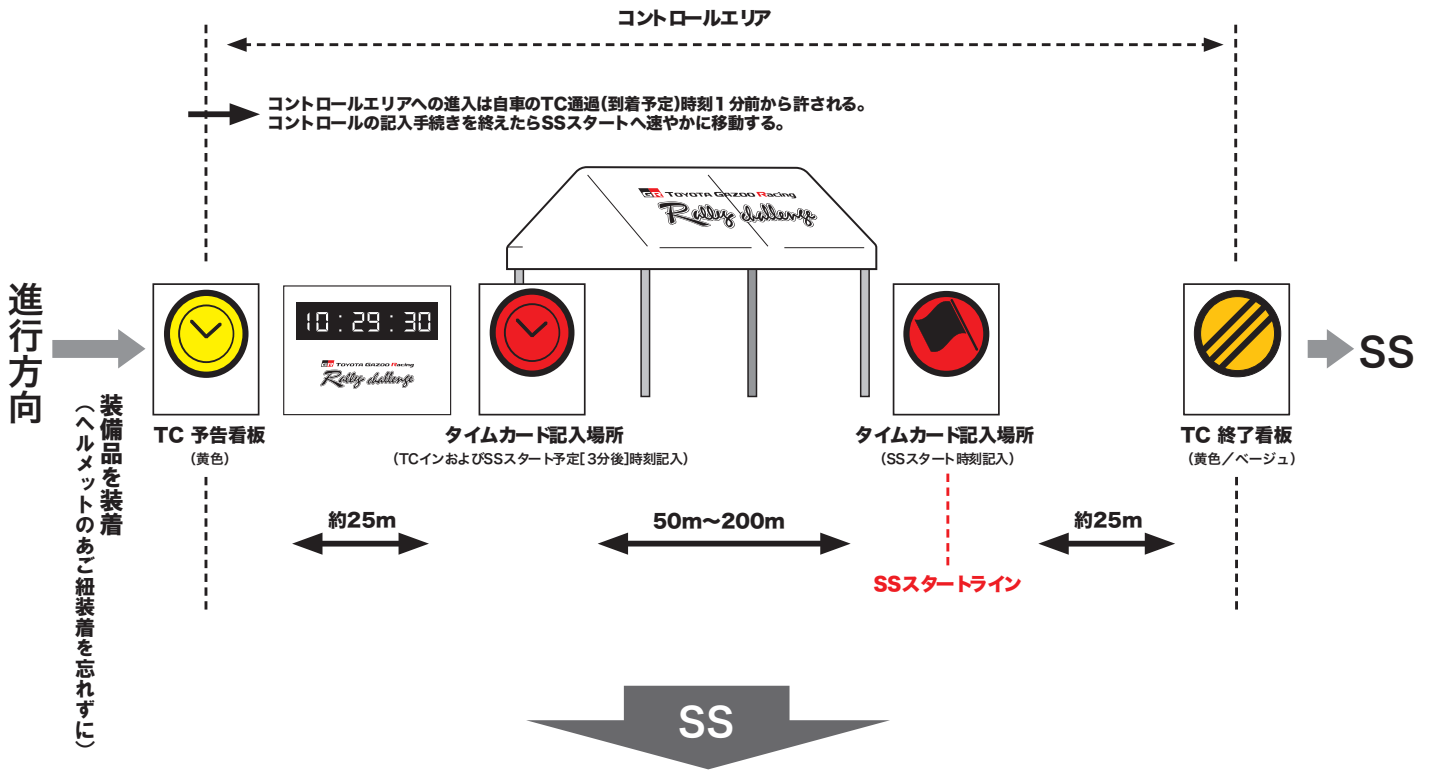
10:30:00



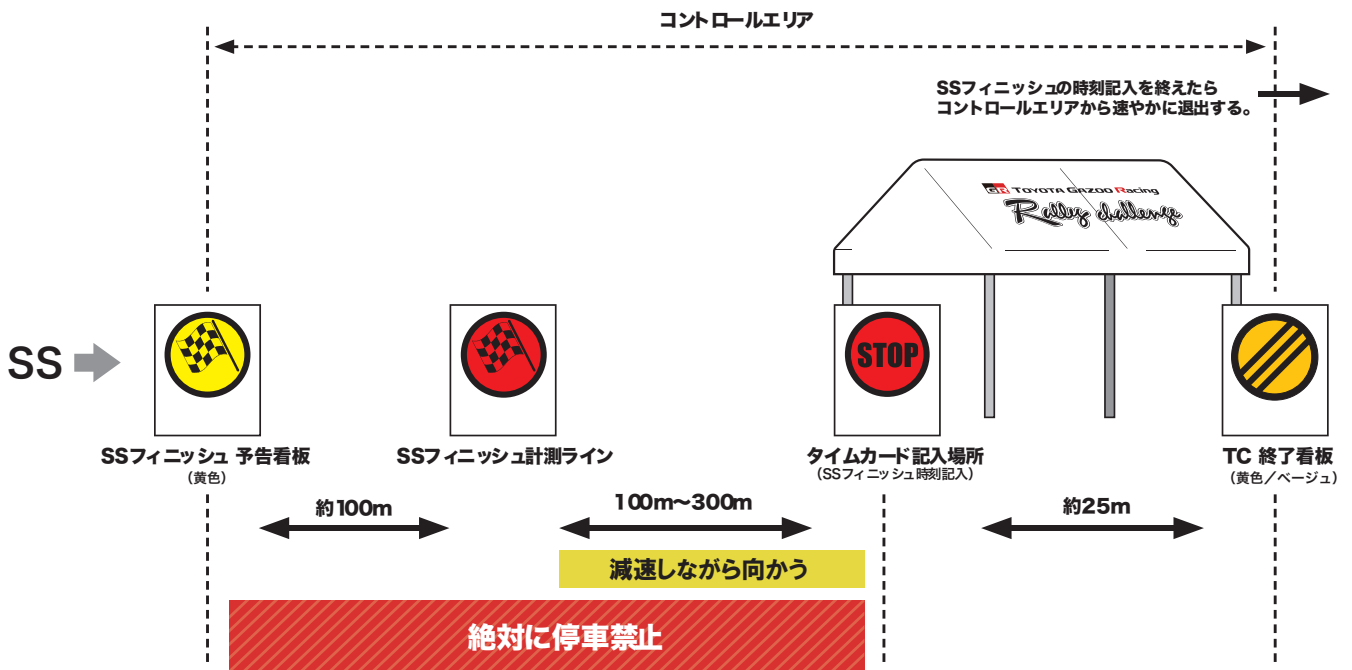
ターゲットタイムになったら
スタッフにタイムカードを提出

タイムコントロール(TC) SS編

SSスタートを含むタイムコントロール



SSフィニッシュのタイムコントロール



- コントロールエリア内は、パルクフェルメ扱いとなるので、オフィシャルから指示のあった場合を除き、一切の作業を行ってはならない。(SSスタート時の窓拭きなどのみ除く。水の補給や空気圧調整などは禁止)
- コントロールエリア内では一連の手続きに必要な時以外、停車したり異常に遅いスピードで走行してはならない。

アクシデントに見舞われたら・・・

ラリーでは自分がコースアウトをしてしまったり、前のクルマがコースアウトをしてしまったり、色々なケースのアクシデントが考えられます。車両火災や人命に関わる重大な事故が起きた場合、あるいは競技の進行がスムーズに行うことができないという緊急時にはオフィシャルが救助に向かいますが、トラブルが起きたときの安全確保や緊急時の措置として、以下のルールをしっかりと覚えておきましょう。

■SSで競技車両がやむを得ず停車した場合の対応

●三角停止板の設置

50m手前の目立つ場所に三角停止板を設置し、後続車に適切な合図を行わなければなりません。車両がコース上にない場合も同様です。またラリーチャレンジ推奨のルールとして、車両直後にも三角停止板の設置をお願いします。

●OK/SOSマークの提示

・怪我や火災の無い場合

後続車両に向けてOKマークを提示してください。提示する場合はコース脇もしくは路肩の上にかかるなどして、自分たちの安全確保を最優先して後続に提示するようにしてください。

※この際、ヘルメットは脱がずに対応してください。後続車両は1分後には走行しますので、2次災害が起きないように注意が必要です。

・車両火災発生や怪我をしてしまった場合

救急医療措置が必要もしくは消火が必要な場合は、SOSマークを提示します。SOSマークは車両の破損や移動できないといった場合に出すものではありませんので注意して下さい。

※ラリーチャレトラッキング実施大会の場合

一連の対応が終了し、余裕がある場合は、ラリーチャレトラッキングアプリより、自車の状況を発報してください(OK/SOS/レグ離脱)。

●後続車の対応

・後続車1台目：すみやかに停車して救助にあたってください。その際、できる限り後ろから来る車両が通過できるように車両を停車します。

・後続車2台目：すみやかにその先のオフィシャル(ラジオポイントやフィニッシュ)まで事故があったという報告に向かう必要があります。

・すべての後続車：緊急車両が通過できるように道の脇に車両を停止させ、救助に向かってください。車両がかなりのダメージを負っていてクルーが車室内にいると思われる(クルーが確認できず、SOS/OKの提示がない)場合も同様の手順となります。

●リタイヤ届の提出

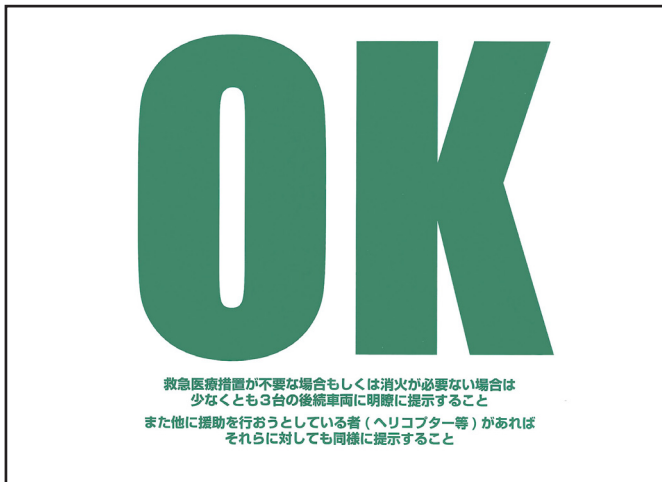
自分がこれ以上競技を続けられない場合は、すべての競技車が通過した後に来るスイーパーにリタイヤ届けを提出します。その後の対応については、オフィシャルと相談してください。

●対物破損状況申告書の提出

走行中に道路施設(標識やガードレール、縁石など)や樹木等を破損した場合には、必ず提出してください。軽微な破損や傷のみの場合も各自で判断せず、提出をお願いします。

OK/SOSボードの意味

OK/SOSボードはトラブルに見舞われた競技車のクルーが状況を後続車に伝えるためのものです。OKはメカニカルトラブルなどで車両は止まってしまったが、重篤な状況になく、救助が必要ない状態を示します。SOSは重篤なトラブルで救助が必要な場合を示します。コースアウトしてクルーが負傷した場合や車両火災の時はこちらを使います。



OK/SOSボード提示例

		状態	OK	SOS
車両	軽微	故障による停止・落下 ※	○	
	重篤	出火など		○
乗員	軽微	救助の必要がない	○	
	重篤	救助が必要		○

※乗員に治療の必要な怪我がない場合

【注意事項】

- ・三角停止板は後続車が確認しやすい場所に設置すること(コーナーの手前)。
- ・OK/SOSボードの提示はできるだけ安全な場所で行うこと(土手の上やガードレール内)。
- ・OK/SOSボードは、緊急時に各クルーがすぐに取り出せる場所へ設置しておくこと。
- ・「OK」「SOS」ページを提示することが可能でない状況にあるときは、車外でクルーによって示される明らかで明確に理解できるジェスチャーで置き換えることができる。



OK/SOSボードが表示できない場合のジェスチャー

緊急時の対応方法



1分後には必ず後続車両が来るので注意してください。



やむを得ずSS内で停止してしまった場合

- ・車両直後（TGRRC推奨）と50m後方の車両が停止している側に三角停止板を設置
- ※崖の下などに転落した場合は転落した場所に設置して下さい。



緊急を要さない場合（ケガや火災が無い場合）

- ・停止した車両のクルーは土手の上など安全な場所から“OKマーク”をすべての後続車両に示します。この時、ヘルメットなどの安全装備品は全て装備した状態に対応して下さい。
- ・停車車両がコース上の場合、状況に応じて停車状態をボディアクション等で後続車両に対し、当該区間最終参加車両通過まで合図すること。
- ・後続の車両は安全な間隔と速度で停止した車両を抜いて下さい。
- ・停止した車両のクルーは車両から離れる場合、リアウィンドウなどにOKボードを必ずOK側に向けた状態で車両に設置してから離れましょう。
- ※通過確認車両“スーパー”が通過するまで待機して下さい。

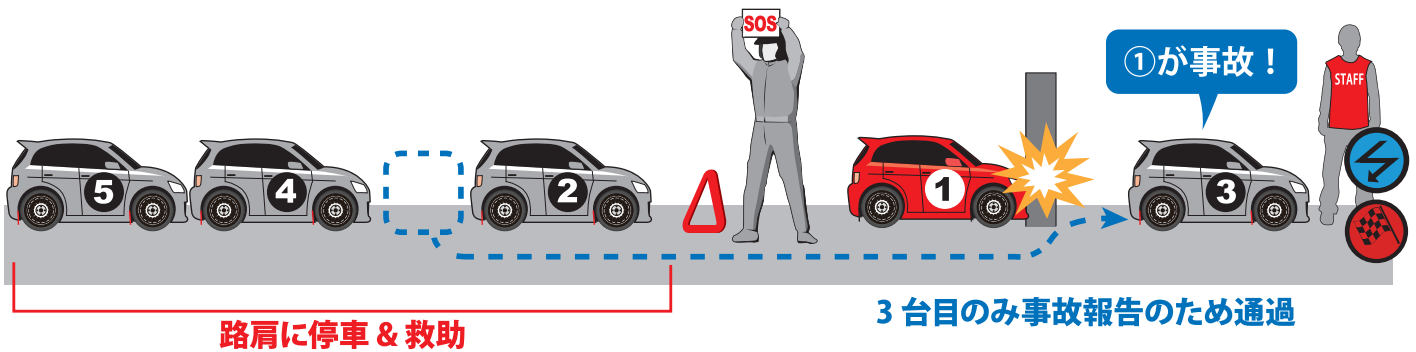


安全な速度で通過（競技継続）

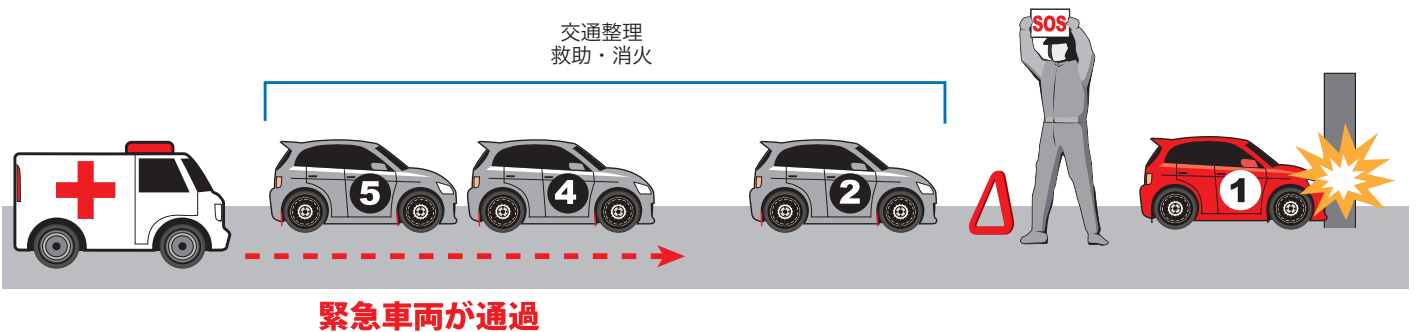
マナー講習会資料

緊急を要する場合（ケガや火災が発生）

- ・ 停止した車両のクルーは土手の上など安全な場所から“SOSマーク”を後続車両に示します。停止を促すようにボディアクションを交えて示すとより安全です。この時、ヘルメットなどの安全装備品は全て装備した状態で対応して下さい。
- ・ SOSマークを確認した後続の車両は直ちに停車して下さい。
- ・ 後続の車両のクルーも①のように三角停止板を掲示して下さい。
- ・ 後続の車両のうち、3台目の車両がSSの中間地点などに設置されているラジオポイントまで連絡に行きます。
- ・ フィニッシュの方が相対的に近い場合はフィニッシュポイントまで向かって下さい。

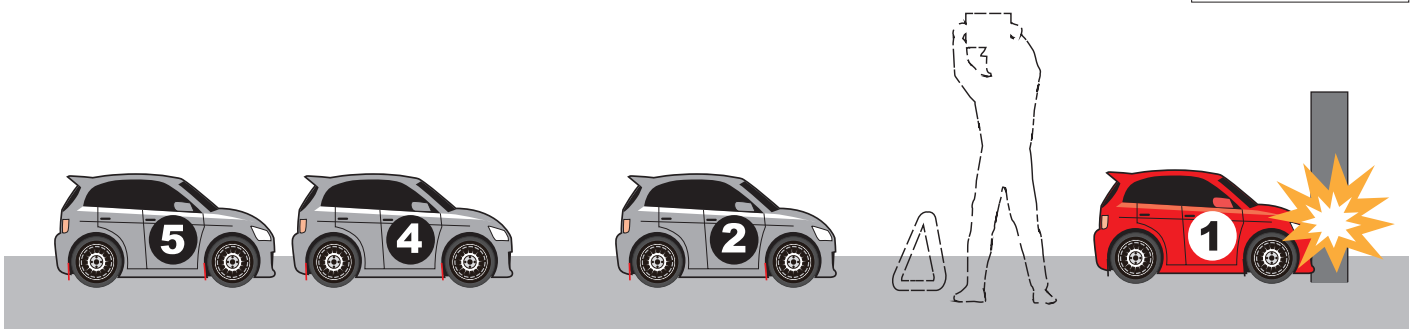


- ・ 残った2台目以降の車両のクルーは手分けをして救助や消火、FIVなどの車両誘導に対応して下さい。この時、車両は全て片側に寄せてFIVがスムーズに通過できるよう配慮して下さい。



緊急を要する可能性がある場合（一切の提示が無い）

- ・ 何も提示が無い場合、車室内でクルーが意識を失っている可能性があります。SOSマークの提示と同様に対応して下さい。



困った時はまずCROに連絡しよう

CRO(Competitor Relations Officer)とは、参加者と競技主催者と審査委員会の間に立ち、さまざまな内容を調査し、参加者にアドバイスをおこなってくれる人のことです。TGRラリーチャレンジでは、毎戦必ずラリー当日の公式通知(公式掲示板)で、CROの連絡先(携帯電話番号)が公示されますので、スタート前に必ず控えておきましょう。

またラリーチャレンジのCROはなんでも教えてくれる先生のような存在です。

気になることや判らないルールなど、気軽に相談してみてください。

連絡・相談の一例)

- ・リエゾン中に渋滞に巻き込まれてTC到着が遅れそうな場合
- ・競技結果に対する疑問について
- ・規則の内容について

※携帯電話番号は、大会毎に変更になる場合がございますので、必ず事前に確認しておいてください。

CRO -Competitor Relations Officer-



岩波 敏樹 (Toshiki Iwanami)

ラリー当日、HQ に連絡先が掲示されますので、エントラント各位はここに連絡先をメモして下さい。

080-1234-5678

※CROとは…コンペティター・リレーション・オフィサーの略で、競技における選手の申し立てを聞く役目として設置されます。
競技中にトラブルがあった際にも選手の窓口となる存在で、選手と大会事務局を繋ぐ役割となります。

ラリー競技当日に必要な場合がある書類について


○車両整備申告書

規則書第33条に記載の整備以外を実施する場合は、技術委員長に申告書を提出の上、許可を得てから作業を実施してください。

■規則書第33条で認められた整備(申告書不要)

- ・タイヤの交換
- ・ランプ類のバルブ交換
- ・点火プラグの交換
- ・Vベルトの交換
- ・各部点検・増し締め

提出先：技術委員長


整備申告書

ゼッケン サービス隊責任者 _____

☆競技・車輛規則書第33条 5項以外の整備をする場合は、
技術委員長の許可を得てから行うこと。

*整備項目(具体的に) 年 月 日 時 分

技術委員長サイン _____

○エンクワイアリーシート


オフィシャルの判定やリザルトに対しての再調査の要望を出す場合に、記入してください。

※タイムカード等の誤記入

※タイム/順位の間違い

※納得のいかない判定を下された 等

提出先：CRO


エンクワイアリーシート/ENQUIRY SHEET

Note: この用紙は、判定やリザルトに対して再調査を希望する場合に、CRO(選手リレーション役員)に提出してください。

ゼッケン ドライバー氏名/ _____
コ・ドライバー氏名/ _____

***宛先**
 本部競技長 技術委員長 計時委員長 その他() _____

***スペシャルステージNo.** _____

***タイムコントロールNo.** _____

***事由**

***受領者署名** _____

●署名 _____ ●提出時間 _____ :

※エンクワイアリーシートに対する回答に納得がいかない場合は、指定の抗議料を添えて正式に競技長宛に抗議文書を提出してください。なお抗議については提出期限(概ね30分以内)があるので注意してください。

■抗議料(2023年3月現在)

国内競技: 53,300円(税込) 準国内競技: 21,200円(税込)

※抗議が認められた場合、抗議料は返還されます。

ラリーチャレトラッキング(競技車両位置確認システム)

ラリーチャレ TRACKING

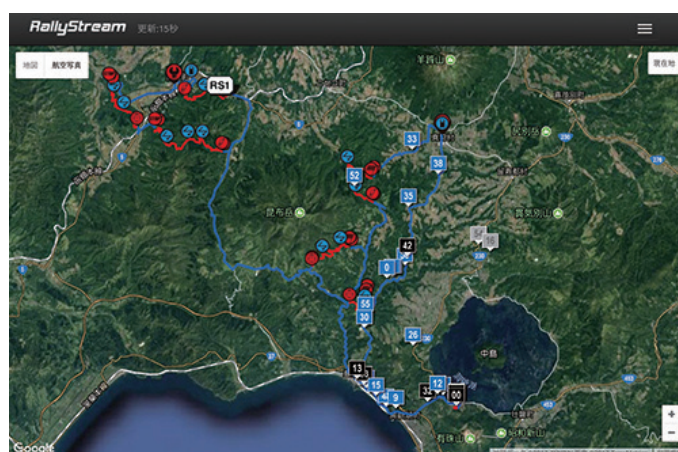
ラリーチャレトラッキングは、参加者(ドライバーもしくはコドライバーのいずれか1台)のスマートフォンに専用アプリを入れることで各車両の位置を本部で確認可能なシステムです。このシステムでは、位置情報が分かる他にも、発報機能があり、アクシデントで止まった際に「OK」「SOS」「リタイア」を報告することが可能です。また、専用サイトを開くことで、関係者の閲覧も可能です。

※ラリーチャレトラッキング実施大会でのアプリ使用は、必須となります。

※リタイアの際は必ず「リタイア届」も提出してください。



選手用アプリ画面イメージ



追跡情報イメージ

<参加者用ラリーチャレトラッキングアプリダウンロードサイト>



※イベント番号とゼッケンは各大会毎に入力が必要です。

●関係者向け位置情報公開サービス

関係者閲覧用サイトのURLは大会毎に公開されます。

HQ前の公式掲示板をご確認ください。

<ラリーチャレトラッキングについてのお問合せ>

システムについてご不明な点は、現地にて、ラリーチャレトラッキングの担当スタッフまでお問合せください。

公式車検について

■車検日程

ラリーチャレンジの車検は、通常当日の朝、レキ終了後、開会式前に実施されます。
大会によっては、当日の混雑を避けるため、前日にも公式車検を実施する場合がございます。
その場合、前日公式車検を受ければ、当日の車検は不要です。

■車検場について

通常、サービスパーク内に車検場が設定されます。
サービスパークが狭い場合には、車検場が設定されず、車検員が巡回する形で実施する場合があります。

■車検の流れについて

車検は、指定された時間内に実施し、合格できないと競技には参加できません。
指定ステッカー、ゼッケンを指定どおりに貼り付け、装備品(ヘルメットやスーツ等)を準備の上で
車検を受けてください。

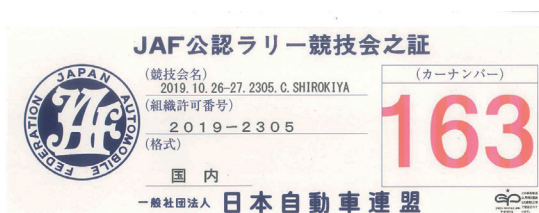
■車検内容について

- ・各種灯火類の確認
(ヘッドランプ、ウィンカー、テールランプ、ナンバー灯など)・・・球切れ等無いか事前に確認ください。
- ・ワイパーの作動確認
- ・クラクションの確認
- ・競技用シートベルトの確認・・・取付方法、使用期限、傷みが無いかなどを確認します。
- ・消火器の状態確認・・・使用期限を事前に確認ください。
- ・ヘルメット、スーツ等の確認・・・使用期限を事前に確認ください。
- ・搭載品の確認(三角停止板、OK/SOSボードなど)
- ・タイヤの確認・・・マーキングを実施するので、スペアタイヤ含めた6本を準備してください。
- ・その他、規則に反する部分が無いかを確認します。

■車検終了後

合格した車両に「JAF公認ラリー競技会之証」が交付されるので、車両外側から見えるように指定箇所に貼り付けてください。

(4ドア車の場合:左リヤドアウィンドウ内側/3ドア車の場合:左クォーターウィンドウ内側)



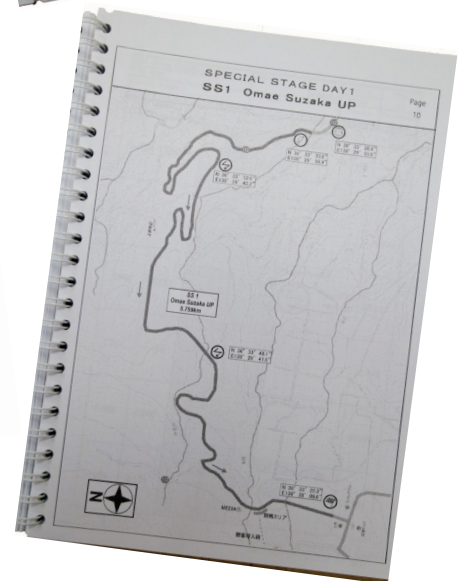
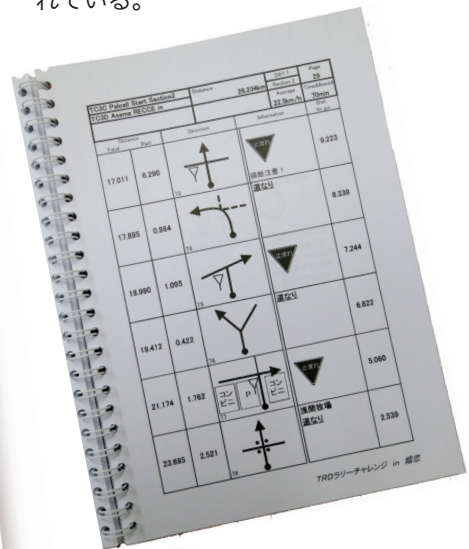
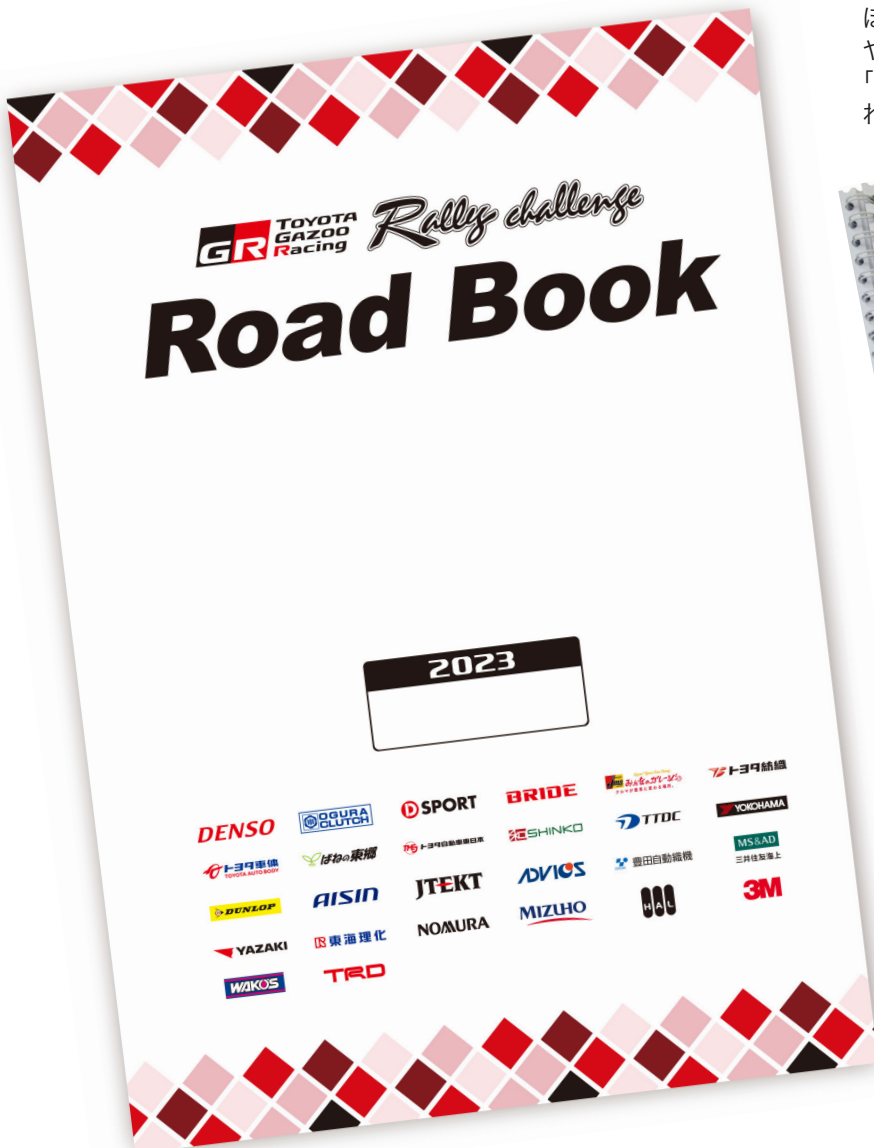
ラリー参戦に必要な知識

●ロードブックとは

ラリーに絶対に必要なものが「ロードブック」です。ロードブックには、ラリーに関する重要なことが書かれています。競技中のアイテナリー、リエゾン(SS間の移動)やSSの順路を示した略式図(通称:コマ図もしくはロードマップ)などが含まれています。選手はこのコマ図に従って走行することで、初めて走るルートでも完走することができます。なお、このコマ図の表記方法は基本的に万国共通です。ラリーチャレンジでは、当日のレキ受付でクルーに配布されます。

整備申告書、エンクワイアリーシート、リタイヤ届、対物破損状況申告書などの提出書類も綴じ込まれています(P21~24参照)

ロードブックには、アイテナリー、コマ図のほか、リタイヤ時に提出する「リタイヤ届け」や、CROに問い合わせを行うことができる「エンクワイアリーシート」なども綴じ込まれている。



リエゾン(一般道移動)に使用するコマ図

アイテナリーはラリー競技の進行予定時間を案内するためのものですが、移動する場所については地名などの名称しか書かれていません。そこで必要になるのがロードブックに含まれている「コマ図」です。

ラリーはコマ図に従って走行することで進行します。コマ図で表されるのは、道の状況や目印と、その図までの距離のみです。

●コマ図の読み上げ方

リエゾンでもSSでも、ドライバーは運転していますので、コ・ドライバーがコマ図に記載されている内容を読み上げ、ドライバーに情報を与える必要があります。

コマ図の読み方は自由ですが、よく使われる読み方の代表例があります。経験者などに聞きながら、ドライバーに正確に伝わる読み方を身につけることが必要です。

また、コマ図に略式で記載されている標識や目標物は、「Information」に分かりやすいように大きく書かれます。

●その他のコマ図に含まれる情報

コマ図にはそのほかにも色々な情報が入っています。例えば信号機の略図やカーブミラーなど、道路標識や目標物の略図をしっかりと覚えることで、無駄なミスコースを防ぐことができます。

距離の測り方

「Total」と「Part」にはそれぞれ距離が記載されています。「Total」はスタート地点からそのコマ図までの距離を表します。「Part」は手前のコマ図からの距離を表します。右端の「Distance To Go」は次のTCまでの残りの距離です。

距離計測はクルマに標準で備わっているトリップメーターでも利用可能ですが、TGRラリーチャレンジでは助手席側に1m単位まで計測できるラリーコンピュータなどを取付けることが一般的です。トリップメーターがふたつある場合は、ひとつを「Total」、ひとつを「Part」にすると、全体の流れがよく分かります。

トリップメーターの計測地点＝リセットする位置は、ドライバーズブリーフィングで必ず確認してください。原則として「止まれ」の標識や停止線がある場合はその場所、停止線などがない交差点では交差点の中央が一般的な計測地点です。2車線区間は左側の車線をキープするのが基本となります。

●リエゾンに使用するコマ図(ロードマップ)の例

TC0 MEGA WEB 0		TC1 MEGA WEB 1		Distance 0.38 km		Day 1	Page 1	
Distance		Average 11.4 km/h		Target time 2		Section 1		
Distance Total		Distance Part		Distance		Information		Distance To Go
0.00	0.00	1		TC0		0.38		
0.23	0.23	2		0.15		引き算		
0.28	0.05	3		0.10		足し算		
0.33	0.05	4		0.05				
0.38	0.05	5		TC1		0.00		最初と最後は同じ

①TC

どのTCからどのTCまでかを示す

②Distance

このコマ図全体の距離

③Average

このコマ図をターゲットタイムで走行した場合の平均速度

④Target Time

このコマ図全体の目標走行時間

⑤Distance - Total

コマ図のスタートからの合計距離

⑥Distance - Part

前のコマ図と現在のコマ図までの距離

⑦Distance To Go

次のTCまでの合計距離

⑧コマ図

道の状況や進む方向を図で示したもの。●が自車の位置で、▲が進行方向、点線が計測地点を表す

⑨Information

左のコマ図の場所にある目印や標識を明示したもの。間違いやすい道などで使われる

SSに使用するコマ図（ロードマップ）

●SSのコマ図特有の表現

SSのコースもコマ図で表されています。地色が網掛けされたボックスは、その区間がSSであることを示しています。


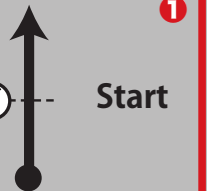

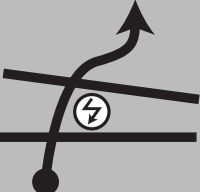







分岐点がある場所は、どちらの方向に行くかなど進行方向を示し、スタート／フィニッシュなどが書かれています。

路面がグラベルであっても、SS区間のコマ図は実線で示されます。その代わりに、SS区間で路面がグラベルのところはボックスの右側が黒く塗りつぶされます。

●路面の違い

グラベルラリーの場合、コマ図の「Distance」と書かれた進行方向と「Information」と書かれたところの2重線が白の場合は路面が舗装路（ターマック）で、黒の場合は未舗装路（グラベル）という分類になっています。SSの一部がグラベルとなっていることもありますので、注意が必要です。

●SSに使用するコマ図(ロードマップ)の例

TC 1 MEGA WEB 1		Distance	0.59	Day	1	Page	2
TC2A MEGA WEB 2		Average	11.8	Section	1		
SS1 SS MEGA 1		0.40km		km/h	Target time 3 mins		
Distance Total	Distance Part	Distance	Information	Distance To Go			
0.00	0.00	 Start 	SS1 SS MEGA 1  0.40	0.59	未舗装		
0.38	0.38		Radio  0.02	0.21			
0.40	0.02		 0	0.19			
0.50	0.10	 STOP		0.09			
0.59	0.09		TC2A 	0.00			

①グラベル区間

「Distance」と「Information」の間が黒の区間はグラベル路面を表す

②ラジオポイント

SS中に設けられた、選手が走行中かどうか無線で通過確認をおこなう場所。消火器なども常備しており、緊急時対応する。

③SS区間

SS中のルートを示すコマ図には、網掛け状の色が追加される

6 ラリー中に使われる標識の意味

ラリーに参戦するうえで必ず覚えておかなければならないのが、様々な標識(サイン)です。これらはラリーで通過する各TCやコース上に設置されており、円滑なラリーの進行に不可欠なものです。これらの意味をしっかりと理解しなければ、いくら速く走ることができてもラリーを完走することはできません。標識のデザインは世界共通で、言語や開催国を問わず、すべてのラリーで使われています。

これらはラリーを経験していくことで徐々に覚えていくこととなりますが、まずはもっとも重要なスタート/フィニッシュ/ストップの標識は必ず覚えておきましょう。

また、SSやリエゾンを走行する際に使う「ロードブック(コマ図)」にも同様の標識が使われているので、標識を理解することはラリーにおいて欠かせません。

SSで使われる標識



TC(タイムコントロール)予告

この標識からコントロール解除までの間は車両整備禁止です。この標識の先へはTCチェックイン時刻の1分前からしか入れません。



TC(タイムコントロール)

TC予告の約25m先にあるのがTC標識です。直前のTCで指定された時刻に合わせて、この標識を通過し、記録を受けなければならない。



コントロール解除

TC予告標識からコントロール解除標識までの区間をコントロールゾーンといい、この区間では一切の車両整備作業が行えません。



SSのスタート

SSのスタート位置を示す標識です。ここでオフィシャルによるカウントダウンが行われます。自分の時刻が来たらスタートします。



SSフィニッシュ予告

SSフィニッシュの約100m手前に置かれる標識がSSフィニッシュ予告。ここから赤いSTOP標識までは停車禁止なので要注意です。



SSフィニッシュ

この標識までがタイム計測区間ですが、この100～300m先に出てくるSTOP標識までは停止せずに減速しながら進みます。



ストップ

SSフィニッシュ後のSTOP標識が出てきたら停止し、記録を受ける。その後速やかにコントロール解除まで走行します。



ラジオポイント

選手が走行中かどうかを確認し無線連絡する場所。消火器なども常備しており、緊急時には対応をします。

ロードマップ (コマ図) で使われる標識



TC(タイムコントロール)



SSの
スタート



SSの
フライングフィニッシュ



SSのストップ



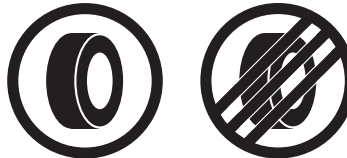
燃料給油
(リフューエル)エリア



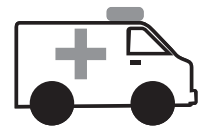
ラジオポイント



サービスパーク



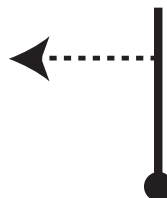
マーキング
確認
タイヤマーキング・確認



FIV
(緊急車両)



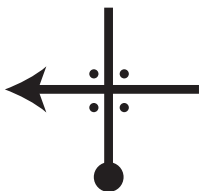
レッカー車



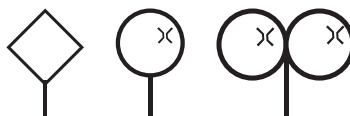
未舗装路
(ダート中は実線にて表示)



橋



信号機



カーブミラー、
落石注意標識他



一時停止

TC (タイムコントロール) カードの使い方

レキ受付もしくは参加受付の際、ロードブックとともにタイムコントロールカード(TCカード)が交付されます。TCカードはラリーの行程に沿ってTCやSSの通過時刻を記録するためのもので、1台に1枚しかありません。TCカードを受け取ったら、自分でゼッケンを記入しておいてください。フィニッシュを除く赤いTC標識のところで必ずオフィシャルに渡し、そのTCの通過時刻あるいはSSのスタート時刻を記入してもらいます。

TCカードは絶対になくさない場所に保管してください。万が一TCカードをなくしてしまうと、失格となってしまいます。

TCカード(例)

黒文字：印字 / 赤文字：オフィシャル記入 / 青文字：エントラント記入

Time Card-A
Day1 Section1

TC1	<p>TC0 Start時刻 $\text{H} \text{M}$ 10 00 + TargetTime $\text{H} \text{M}$ 0 20 → 到着時刻 $\text{H} \text{M}$ 10 20 到着予定時刻 $\text{H} \text{M}$ 10 20</p> <p style="text-align: right;">+3Min</p>	Car No, <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/>
SS1	<p>Start予定時刻 $\text{H} \text{M}$ 10 23 Start時刻 $\text{H} \text{M}$ 10 23</p> <p>Finish時刻 $\text{H} \text{M} \text{S}$ 10 25 15 4 所要時間 $\text{M} \text{S}$ 2 15 4</p> <p style="text-align: center;"><small>Toyota Gazoo Racing Rally challenge</small></p>	サイン 鈴木
TC2	<p>SS1 Start時刻 $\text{H} \text{M}$ 10 23 + TargetTime $\text{H} \text{M}$ 0 35 → 到着時刻 $\text{H} \text{M}$ 到着予定時刻 $\text{H} \text{M}$ 10 58</p> <p style="text-align: right;">+3Min</p>	Car No, <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/>
SS2	<p>Start予定時刻 $\text{H} \text{M}$ 足し算 Start時刻 $\text{H} \text{M}$</p> <p>Finish時刻 $\text{H} \text{M} \text{S}$ 所要時間 $\text{M} \text{S}$</p> <p style="text-align: center;"><small>Toyota Gazoo Racing Rally challenge</small></p>	サイン <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/>
TC3	<p>SS2 Start時刻 $\text{H} \text{M}$ + TargetTime $\text{H} \text{M}$ 0 25 → 到着時刻 $\text{H} \text{M}$ 到着予定時刻 $\text{H} \text{M}$</p> <p style="text-align: right;">+3Min</p>	Car No, <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/>
SS3	<p>Start予定時刻 $\text{H} \text{M}$ Start時刻 $\text{H} \text{M}$</p> <p>Finish時刻 $\text{H} \text{M} \text{S}$ 所要時間 $\text{M} \text{S}$</p> <p style="text-align: center;"><small>Toyota Gazoo Racing Rally challenge</small></p>	サイン <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/>
TC3A	<p>SS3 Start時刻 $\text{H} \text{M}$ + TargetTime $\text{H} \text{M}$ 0 15 → 到着時刻 $\text{H} \text{M}$ 到着予定時刻 $\text{H} \text{M}$</p> <p style="text-align: right;">+3Min</p>	Car No, <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/>
SS3A	<p>Start予定時刻 $\text{H} \text{M}$ Start時刻 $\text{H} \text{M}$</p> <p>Finish時刻 $\text{H} \text{M} \text{S}$ 所要時間 $\text{M} \text{S}$</p> <p style="text-align: center;"><small>Toyota Gazoo Racing Rally challenge</small></p>	サイン <input style="width: 100%; height: 40px;" type="text"/>

オフィシャル(スタッフ)が記入

自分で書くのはこの欄だけ

初めから印字されている

ペースノートの作成イメージ

ペースノート解説

ペースノートとは

SSのカーブの形状や路面状況などのコース情報を書き込んだノートです。
ラリー中は、コ・ドライバーが読み上げるペースノートの情報をもとにして全開走行を行います。
主にB5サイズのリングノートを使用することが多いです。

ペースノート作成の流れ

競技前の事前走行（レッキ）時にコースの情報を書き込みます。
走行しながらドライバーが指示を出し、コ・ドライバーが書き込んでいくのが一般的です。
また、レッキ時のスピードと競技スピードの違いを考慮することもポイントとなります。

ペースノート読み上げ

常にコースの先の情報をドライバーに伝えますが、読み上げるタイミングが重要となります。
ドライバーとコ・ドライバーで最適のタイミングを事前に打ち合わせしておきましょう。
また、確認のために再度読み上げる場合もあるので、読み上げのルールを決めておくといいでしょう。
(再読み上げの時は声のトーンや読み方を変えるなど)

ペースノート作成時の注意

他の選手もレッキ走行しますので、途中で急に停車すると危険です。停車する際は、後続車が見つけやすく追い越しやすいストレート区間で停車しましょう。安全でスムーズなペースノートづくりを心がけてください。

Tips ▶ ペースノート表記用語（例） 参考例です。チームによって分かりやすい方法で作成しましょう。

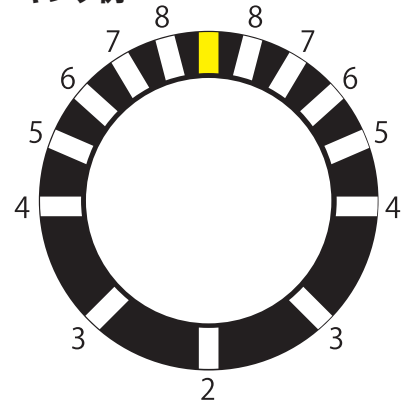
表記	読み	意味
1~8	ワン~エイト いち~はち	コーナーでのステアリングの切り角を1~8 程度の段階で表す。 数値が小さいほど旋回半径（R）が小さいタイトなコーナー
L	レフト エル	左コーナー（他表記例：ひ）
R	ライト アール	右コーナー（他表記例：み）
sh	ショート	短いコーナー
lg	ロング	長いコーナー
vlg	ベリーロング	とても長いコーナー（さらに長いコーナーは vvlg[ベリーベリーロング]とも表記）
<	オープン	出口に向けて緩くなるコーナー
>	タイトゥン	出口に向けてキツくなるコーナー
→	イントゥ からの	連続コーナー
+	アンド	間隔のある連続コーナー
KI	キーブイン	コーナーの内側を走るライン取り
KO	キーブアウト	コーナーの外側を走るライン取り
cut	インカット	コース内側をカットして走るライン取り
DCT	ドントカット	側溝や崖などがあり、インカットすると危険なコーナー
C	クレスト	坂道の頂点など、先が見渡せない起伏（他表記例：ハ）
kinx	キンクス	直線的に抜けられる道路のうねり
!	コーション	注意すべき箇所。重要度によって、!!（ダブルコーション）、!!!（トリプルコーション）
bump	バンブ	車体がジャンプする凹凸箇所

Tips ▶ ステアリングの切れ角とマーキング



コーナーでのステアリング切り角を正確に記録するため、ステアリングにテープ等でマーキングする選手も多い。

マーキング例



ペースノート記入例(参考例)

L3vlg R6→L3lg 30

R4lg 30 R6sh → L7lg 20

R5 → L5lg > R5lg (7L) 80

L6< 30

R4 40 ^ !bump 30 R5

R1 → L6vvlg

左3度の とても長いコーナー
右6度から、長い左3度の連続コーナー
30mの直線

右4度の長いコーナー、30mの直線
右6度の短いコーナーから連続した
左7度の長いコーナー
20mの直線

右5度から連続した
出口のきつい左5度の長いコーナー
右5度の長いコーナー
グレーチング（側溝蓋）あり
80mの直線

左6度の出口が緩いコーナー
30mの直線

右4度のコーナー 40mの直線
起伏、凹凸注意
30mの直線、右5度のコーナー

右1度のコーナーから連続した
左6度のとても長いコーナー

「ラリー」とは？

- ▶ ラリーは一般公道を使用する自動車競技です。
- ▶ ドライバーとコ・ドライバーの二人で協力して参加します。

1 ラリーの起源

ラリー“rally”という言葉は“呼び集める”“再び集まる”という意味を持ち、その起源は中世にまでさかのぼります。当時、領主の元へ各地から騎士が集結したのがラリーの始まりとされ、世界初の自動車ラリーであるラリーモンテカルロ(1911年～)は、文字どおりヨーロッパの各都市からモナコへとラリーカーが集結するイベントでした。

2 ラリーの種類

ラリーは、サーキットのように限られた場所で争うモータースポーツと異なり、一般公道を使用し、いろいろな路面環境のなかでテクニックと速さを競うモータースポーツです。ラリーには様々な形式がありますが、現在は世界ラリー選手権(WRC)で採用されている、決められた区間で1台ずつタイムアタックを行い、その積算で順位が決まる「SSラリー」が一般的です。

またラリーは路面の違いによって、未舗装路で行われる「グラベルラリー」、舗装路で行われる「ターマックラリー」、雪路で行われる「スノーラリー」と大きく3つに分けられます。グラベルとターマックの両方の路面を使うラリーを「ミックスラリー」と言います。

3 ラリーはふたりで行う競技

ラリーの大きな特徴として、ドライバーとコ・ドライバーがペアで参加するモータースポーツであることが挙げられます。助手席に乗るコ・ドライバーはコースのナビゲーションが主な仕事で、SSではより高度にコースや走行を指示するペースノートを読み上げる役割を担います。それ以外にもスケジュール管理などを行ない、ドライバーをサポートします。ラリーはレースと違い、1台ずつのタイムアタックのため、自分のペースで走ることができます。また、スタートの待ち時間にステージ攻略などを選手同士で情報交換するのもラリーならではの風景です。さらにTGRラリーチャレンジでは、家族や友人が応援に訪れたり、和気あいあいとした雰囲気ですべて1日を楽しむことができます。

4 ラリー車両

ラリーで使用する車両はすべて量産車をベースとしています。競技の格式やカテゴリーで改造可能な範囲は異なりますが、最高峰であるWRCでも私たちが街で見かける市販車をベースにしています。

ラリーの主な歴史

- 1911年……世界初の自動車ラリー、モンテカルロ(モナコ)初開催
- 1932年……RACラリー(イギリス)初開催
- 1953年……サファリラリー(アフリカ)初開催
- 1973年……FIA世界ラリー選手権創設
- 1977年……FIA世界ラリードライバーズ選手権創設
- 1980年……JAF全日本ラリー選手権創設
- 2001年……TRDヴィッツチャレンジ創設/プレシーズン開催
- 2012年……TRDラリーチャレンジに名称変更
- 2016年……TOYOTA GAZOO Racingラリーチャレンジへ



ラリーの競技内容別分類

種類	概要	主な競技
スペシャルステージ (SS) ラリー ※	道路を占有したスペシャルステージを何カ所か走行し、フィニッシュ時にそのSSタイムの合計が少ない選手が勝利となるラリー。	WRC APRCなどのスプリント系ラリー 全日本ラリー TOYOTA GAZOO Racingラリーチャレンジ
アベレージラリー ※ (リライアビリティラン)	指定区間を決まった時間で走行し、所要時間の正確さを競うラリー。減点が少ない選手が勝利となる。アベレージ走行のみの第1種と、一部にSS区間を設けた第2種がある。	茨城栃木デリラリーシリーズ JMRC近畿アベレージラリーシリーズ
ラリーレイド (クロスカントリーラリー)	主催者から与えられるロードブックをたよりに、走行ルートを選びながら長距離を走破するラリー。過酷な環境のため、ベース車両はSUVなどの4WDが用いられることが多い。	ダカールラリー アジアクロスカントリーラリー クロスカントリーバハ
ラリークロス (スピード行事)	短いサーキットを使用して複数のマシンが同時に走行するレース形式の競技。厳密にはラリーとはルールが異なる。2014年からFIA世界ラリークロス選手権が開始。	WorldRX グローバルラリークロス選手権

※JAF国内競技規則2-14 (1) 第1類ラリー

ラリーの路面の違い



●グラベル (未舗装路)

砂利等で構成された路面。グリップレベルが低く、地域や気候によって様々に変化する。



●ターマック (舗装路)

アスファルトやコンクリート等で舗装された路面。グリップレベルが高い。一般公道を使用したステージも設定される。



●スノー (雪路)

グラベルやターマック上に氷や雪が積もった路面の他、湖面に張った氷の上を走るステージも設定される。グリップレベルが極めて低く、車両のコントロールが難しい。

※各ラリーイベントでの路面割合は「特別規則書」で公開されます。

TOYOTA GAZOO Racingラリーチャレンジってどんなラリー？

- ▶ WRCと同じSSラリー方式を採用しています。
- ▶ 入門者から上級者まで楽しめるラリーシリーズです。

1 世界のラリー

世界のラリーはFIA世界ラリー選手権(WRC)を頂点として、FIAが管轄する世界各地のFIAリージョナル(地域)ラリー選手権、各国選手権といったピラミッドが形成されています。頂点であるWRCでは自動車メーカーによるワークスチームが世界タイトルを懸けて激しい戦いを繰り広げています。

ラリーはF1などのサーキットレースと異なり、最高峰のWRCにもプライベートによる参戦が可能となっています。様々なレベルの参加者が自分に合ったラリーを選んで楽しめるのもラリーの特徴と言えるでしょう。

2 日本のラリー

日本のラリーは、JAF全日本ラリー選手権を頂点として、全国5地域でJAF地方ラリー選手権が開催されています。さらに都道府県や、地域をまたいで実施されているシリーズ戦などもあります。

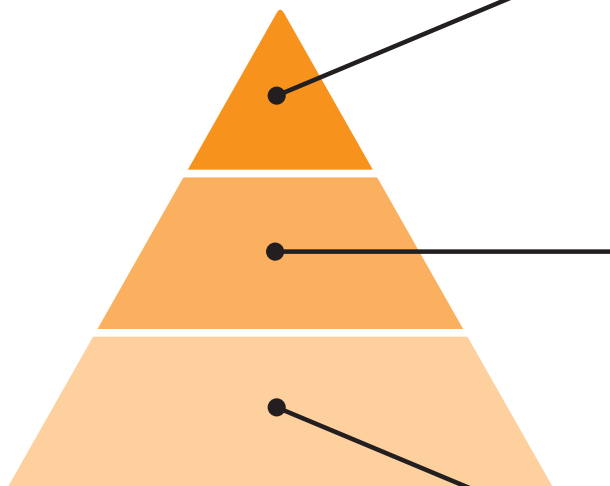
近年、全日本ラリーはギャラリーステージやイベント会場を設置し、観客も楽しめる要素を積極的に取り入れ、参加者だけでなく地域やファンをも取り込んで大きな盛り上がりを見せています。

3 TOYOTA GAZOO Racingラリーチャレンジ

TGRラリーチャレンジは、2001年から本格的にスタートした比較的新しいラリーシリーズです。当初はTRDヴィッツチャレンジというヴィッツによるワンメイクラリーでしたが、ヴィッツのモデルチェンジを機に参戦車両やクラス区分も変更されました。2012年からは「TRDラリーチャレンジ」と名称を変更し、ヴィッツや86、すべてのトヨタ車のほか、他メーカーのクルマも参加可能にするなど、より多くの方が参戦しやすくなりました。

2016年からは「TOYOTA GAZOO Racingラリーチャレンジ」へと装いを新たにし、初心者からベテランまで楽しめる魅力はそのままに、開催地域をさらに拡大しています。TGRラリーチャレンジで培った経験は、同じSSラリー形式で行われている全日本ラリーやWRCでも活かすことができるのが大きな魅力のひとつです。

世界のラリー



FIAが管轄するラリーはWRCを頂点としてリージョナル(地域)選手権、ナショナル(各国)選手権となっている。ただし各国選手権は国ごとのASNが実施するものでFIAは直接関与していない。



WRC FIA世界ラリー選手権

国際Rライセンス以上



FIAリージョナル ラリー選手権

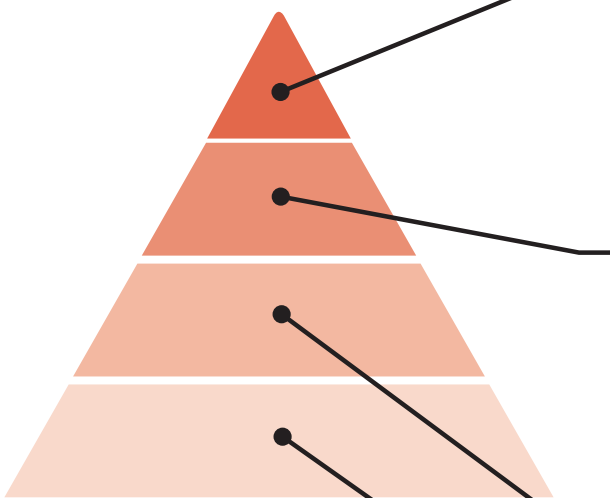
(アジア・パシフィック/ヨーロッパ/
アフリカ/中東/南米/中南米)
国際Rライセンス以上



各国ナショナル (ローカル)選手権

国内Bライセンス以上(日本の場合)

日本国内のラリー



JAF 全日本ラリー選手権

国内Bライセンス以上



JAF 地方ラリー選手権

北海道/東日本(東北+関東)/
中部・近畿/中四国(中国+四国)/九州
国内Bライセンス以上



都道府県 ラリー選手権

国内Bライセンス以上

TOYOTA GAZOO Racing ラリーチャレンジ

国内Bライセンス以上

TOYOTA GAZOO Racing ラリーチャレンジは個々の経験を問わず、あらゆるレベルの選手に門戸を開き、初心者から上級者まで幅広く楽しめるラリーという位置づけ。



ジュニア選手権/ その他参加型ラリー

国内Bライセンス以上
※クローズドクラスはライセンス不要

ハイブリッド車両の新しい楽しみ方

近年ではハイブリッド車両によるワンメイク（車種限定）クラスを設定しています。ハイブリッド車両ならではのポイントを正しく理解して使用しましょう。

今日では、一歩街に出るとハイブリッド車両に出会わない日は無いと言っても過言ではありません。先進的な技術は優れた環境性能と経済性によってみなさんの生活に溶け込んでいます。モータースポーツにおいても同様で、ハイブリッド自動車活躍する舞台が増えつつあります。TGRラリーチャレンジでは2016年よりお馴染みのトヨタ アクア(NHP10)限定のクラスを設定した他、その他のクラスではプリウスなど他のハイブリッド自動車も参加できるイベントになっています。

1 ハイブリッド車両による新しいラリーの楽しみ方

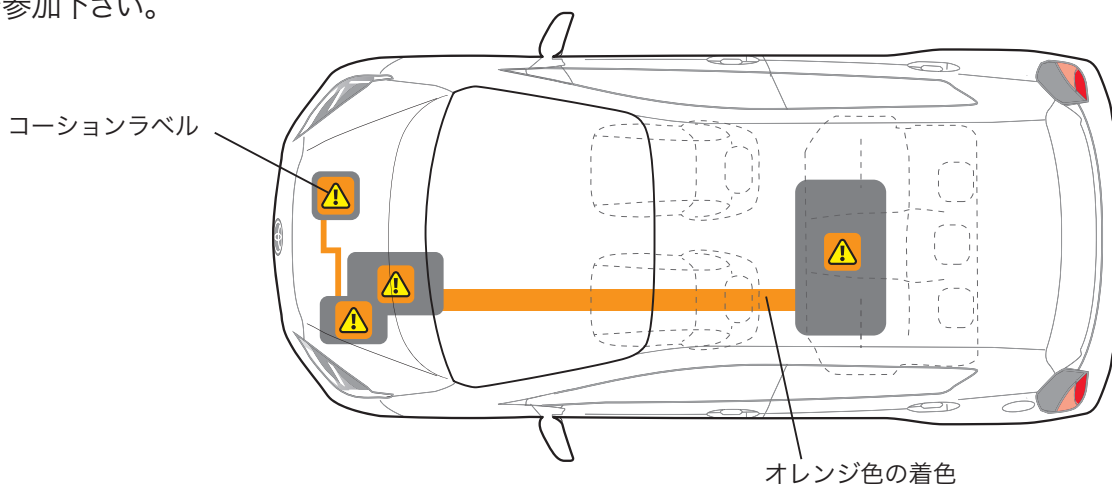
高い環境性能と経済性が魅力のハイブリッド車両はラリーに参加するうえでも大変魅力的です。日常使用する車両で参加できるTGRラリーチャレンジでは毎日のお買い物で低燃費を発揮するだけではなく、ラリー会場との往復の移動はもちろん、競技に参加している時も燃料消費が少なく済みます。燃料を満タンにして出発し、そこから一切給油をせずに一日楽しんでお家へ帰るなんていう事も容易くできてしまうのがハイブリッド車両です。

また、その魅力は環境性能や経済性だけではなく、モーターが生み出す異次元の加速性能はこれまでのコンパクトカーでは体験できない力強い走りを実現します。ブレーキが続く区間で充電を満たし、ストレートで一気に開放するといった戦略的な走りが楽しめるのはハイブリッド車両ならではの魅力です。

2 ハイブリッド車両と正しく付き合うために

ハイブリッド車両は従来のエンジンのみで走る自動車とは異なり、高い電圧を自ら発生させて消費するシステムが備わっています。こうした高い電圧が流れている箇所の部品は全てオレンジ色に着色されているか注意喚起のステッカー(コーションラベル)が貼付されており、これらの箇所に知識のない方が不用意に触れると危険な場合があります。メンテナンスなどをご自宅の電気設備同様に資格を持つプロの方に作業してもらいましょう。

ただし、ハイブリッド車両には状態が正常でないと判断した場合に作動するご自宅のブレーカーのようなシステムが備わっています。また、もしもの際に対応できるようにオフィシャルも必要な装備を備えていますので安心してご参加下さい。



ボランティア・オフィシャルをやってみよう

あなたもラリーの現場で働いてみませんか？

ラリーは、サーキットで行われるレースとは違い、多数のオフィシャルやボランティアの協力で開催されています。TGRラリーチャレンジでは、そんなオフィシャルやボランティアに協力していただける方を募集しています。

まずはライセンス不要なボランティアから体験してみたいはいかがでしょうか？

ラリーボランティア教育専属のスタッフも居りますので、未経験者でも簡単に始められます。

我こそはと思ったラリーファンの方は、是非ご協力をお願いします。

■ ボランティアとは？

競技の受付や観客誘導、プログラムの配布など競技の周辺を管理する業務を行っていただきます。ライセンスは不要です。また興味があれば、オフィシャルへのステップアップもサポートいたします。ラリーチャレンジでのオフィシャル業務は半日程度で、空き時間には競技を観戦できる時間を設けていただくと予定です。基本的には、無償で協力いただく形となりますが、昼食と簡単なお土産は準備させていただきます。



■ オフィシャルとは？

競技運営の軸になるメンバーで、JAFの公認審判員のライセンス(コース・技術・掲示)を所有した人のことを指します。

<公認審判員の種類>

コース: 競技が円滑に行われるようコースを監視する役務

掲 示: 競技のタイムを記録し、競技結果表を作成する役務

技 術: 競技車両の検査などを行う役務

※詳しくはJAFモータースポーツのページをご確認ください。



■ ラリーボランティア講習会

実際にボランティアを体験していただく前に、ラリーのしくみやボランティアの業務についての説明会を実施します。まずは講習会にご参加いただきボランティアの役目をご確認ください。

※日程はウェブサイトにて公開します。

■ ボランティア募集イベント

※検討中。詳細はウェブサイトにて公開します。

■ お問い合わせ窓口

オフィシャルやボランティアをやってみたいという方や、ご質問のあるかたはお気軽に下記までメッセージを送信ください。

volunteer@rallychallenge.jp

ラリー関連用語

アイテナリー Itinerary	ラリーの進行や時間を明記したスケジュール。 (P8~9参照)
エンクワイアリーシート Enquiry Sheet	オフィシャルの判定やリザルトに対して疑義があり、再調査の要望を出す場合に、記入してCROIに提出する書類。 エンクワイアリーシートはロードブックに含まれる (P22参照)
オーガナイザー Organizer	開催される大会を主催するクラブ・団体のこと。
オルタネートルート AlternateRoute	SS内で事故等が発生し、通過が出来ない場合に設定される抜け道のこと。
公式掲示板	ラリー当日さまざまな情報が貼り出される掲示板。通常HQ前に設置される。
コマ図 Road Map	リエゾン(SS区間の移動)やSSの順路を示した略式図のこと。ロードマップとも呼ぶ。 ロードブックに掲載されている。
コントロールエリア Control Area	TC前に設けられるエリアで、TC予告標識からTC終了標識までの区間。コントロールエリアにはTC通過時刻の1分前から進入が可能。またこの区間では整備は出来ないので注意が必要。 (P13~15参照)
サービスカー Service Car	サービスパーク内に駐車し、競技車両のメンテナンス工具やスペアパーツ等を積んでいる車両。 TGRラリーチャレンジでは、エントリー時にサービスカーの登録も必要となり、登録されていない場合はサービスパーク内への駐車はできません。
サービスパーク Service Park	ラリー中に車両整備などを行う場所。公共の場所に設置される場合が多いため、整備の際は汚さないようサービスシート(ブルーシート等)を敷いて作業をすること。
車両整備申告書	競技中に規則書第33条に記載の整備以外を実施する場合に、技術委員長に提出する書類。許可を得ず作業をした場合はペナルティの対象となる。申告書はロードブックに含まれる。 (P21参照)
スイーパーカー Sweeper Car	全競技車両走行後にコースの確認のために走行する車両。コースアウトした車両の対応や落下パーツの回収などを行う。この車両が走行した時点で、コースがクリアとなります。
スペシャルステージ(SS) Special Stage	走行タイムを計測する競技区間。日本では道路占有許可を取得し、封鎖された道路で走行する。
O(ゼロ)カー O Car	競技直前に、コースの安全確認のために競技スピードと同等の速度で走行するオフィシャルカー。 競技車両の接近を知らせるため、サイレンを鳴らしながら走行する。【ゼッケンO】
OO(ゼロゼロ)カー OO Car	ゼロカーの前に、コースの安全確認のために走行する車両。ゼロカーとは違い、低速で走行しながらコースの確認を行う。【ゼッケンOO】
タイムコントロール(TC) Time Control	ラリー車両の通過を確認し、通過時間の記録を受ける場所。赤い時計の標識で表され、タイムコントロールカードをオフィシャルに提出して自分の通過時間を記録してもらう。 (P13~15参照)
パルクフェルメ Parc Ferme	車両保管場所のこと。ここでの車両整備は一切の作業が禁止される。ラリーではあらかじめ決められた車両保管場所の他に、TCのコントロールエリアに進入してから退出するまでの間、スターティングエリアまたはリグループエリアに進入してから退出するまでの間もすべて車両保管状態となり、一切の作業が禁じられる。またフィニッシュ後のパルクフェルメでは、正式結果が出るまで立ち入りが出来なくなるため、忘れ物にも注意が必要です。
ペースノート Pace Note	SSのコース状況などを記録したノート。レッキでドライバーが読み上げた情報をコ・ドライバーが記録し、競技本番ではコ・ドライバーがペースノートの情報を読み上げドライバーに伝えながら競技走行を行う。(P35~36参照)
ヘッドクォーター(HQ) Head Quarter	ラリーの運営本部のこと。参加受付、お弁当の配布等もここでを行います。
リタイア Retire	車両トラブルや怪我、体調不良等により競技を棄権すること。リタイアする場合は、リタイア届けを提出しなければならない。リタイア届はロードブックに含まれている。 (P23参照)
リエゾン Liaison	SS区間の間の一般道を走行する移動区間。ロードセクションとも呼ばれる。リエゾンでは、道路交通法の速度や標識などを守って走行する必要がある。
レッキ(レキ) Reconnaissance	SSコースの事前試走のこと。TGRラリーチャレンジでは早朝に1回のみ実施可能だが、WRCや全日本ラリーなどでは、各2回までの走行が可能。レッキでの走行は、道路交通法の制限速度を守って走行する必要がある。
ロードブック Road Book	ラリー競技に必要な情報が書かれた冊子です。アイテナリー、コマ図、リタイア届けなどが含まれます。 ロードブックは参加受付もしくはレッキ受付で参加者に配布されます。
CROI Competitor Rerations Officer	参加者と競技主催者と審査委員会の間に立ち、さまざまな内容を調査し、参加者にアドバイスをしてくれる人のこと。(P20参照)
FIV(緊急車両) First Intervention Vehicle	重大な事故や負傷者が出た際に出動する緊急車両。万が一に備え、救急救命対応をするための装備などが備えつけられている。



2023年3月21日 第11版発行

<お問合せ先>

TOYOTA GAZOO Racing ラリーチャレンジ事務局((株)プロクルーズ内)

電話：0493-61-1185

Eメール：info@rallychallenge.jp